



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 45 号

編集・発行 府中市教育委員会学校教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063

お世話になりました



学校教育部
前部長 松本 三喜夫

退任のあいさつ

各学校では、新入生を迎えて
順調に教育活動が展開されてい
ることと存じます。

さて、私、このたびの4月1
日付で学校教育部から子ども家
庭部へ異動になりました。1年
という短い間の在任でしたが、
教育委員の先生方をはじめ、各
学校の校長先生及び関係者の
方々には大変お世話になりました。
深く感謝申し上げます。

この間の学校教育にかかわり
ます課題等は、ソフトからハー
ドまで多岐多様にわたっており
まして、何年間も仕事をさせて
いただいたかの感がしております。

特に、教育制度や学校のあり
方などをめぐる昨今の論議には、
大変活発なものがありません。
総務省の教育再生会議や文部科
学省の中央教育審議会などに

いては、マスクミなども会議の
様子や委員一人ひとりの発言な
ど、こと細かに報じておりまし
た。

在任中、そういった報道など
を見聞するたびに肝に銘じてお
りましたのは、教育論議は大い
にしていたたくとしても、その
ことによってもっとも肝心な学
校の児童・生徒の教育に混乱を
きたしてはいけない、教育は子
どもたちのためのものであると
いうことでした。

そこで、いつも考えておりま
したのは、動かさなければなら
ないことと動かしてはいけな
いことの見極めでした。

昨年、教育基本法の改正があ
りました。今後は学習指導要領
の改正、さらには学習指導要領
の改訂などが予定されています。
引き続き、遠くからではありません
ですが、教育を見守ってまいりま
す。

在任中の関係者のご厚誼に感
謝いたしました。異動のあいさ
つといたします。ありがとうございます
ございました。



よろしくお願ひします



学校教育部
部長 糸満 純一郎

就任のあいさつ

このたび学校教育部長を拝命
いたしました糸満純一郎ござ
います。どうぞよろしくお願ひ
いたします。

前職は議会事務局長で、4年
間務めました。学校教育部は初
めての職場ですので、まだ分か
らない事も数多くありますが、
一日も早く仕事に慣れ、学校現
場のサポートに全力を尽くして
参りたいと考えております。

私は、以前に3年程生涯学習
部長として教育委員会に在籍さ
せていただいた経験があり、今
回は4年振りの復帰という形に
なりました。

当時「府中市学校教育プラン
21協議会」の委員として、議論
の輪に加えていただきました事
も懐かしい思い出です。

また、「府中市中央図書館あり
方検討協議会」や「学校開放事

業」等でお世話になった校長先
生方がまだ何人か残っておられ
ますのもまことに心強い限りで
ございます。

しかし、あの頃とは教育行政
を取り巻く環境は大きく変わ
りました。昨年末には教育基本法
が改正され、それに伴い中央教
育審議会や教育再生会議におい
て、様々な議論がなされ、関連
法令等の見直しが進められよう
としております。現在は、まさ
に教育改革の大きなうねりの只
中にあると言う事ができると思
います。

松尾芭蕉の唱えた俳諧の言葉
に「不易流行」があります。世
の中には、いかなる時代にあっ
ても変わる事のない真理と、時
代の変化に応じて、刷新して行
くべき事柄があります。教育に
関しても同じ事が言えるのでは
ないでしょうか。「不易を知らざ
れば基たちがたく、流行をわか
まへざれば風新たならず」と芭
蕉は教えています。私もこの事
を肝に銘じて「誇りをもてるふ
るさと府中を創り、世界に活躍
する府中っ子を育てる」ために
職責を全うして参る所存ござ
います。どうぞよろしくお願ひ
を申し上げます。

平成18年度府中市教育委員会児童・生徒表彰式

日頃の努力の成果が

認められ表彰される



皆さんは、鼓笛隊・和太鼓クラブ・金管バンド・合唱団などの音楽活動、陸上競技・水泳・サッカー・野球などのスポーツ活動、そして奉仕、福祉、人命救助などの分野で素晴らしい活動や成果を挙げられました。日頃、学校などで練習したり、努力してこられたことが今日の受賞に結びついたのだと思います。今日の日を励みとして、これからも立派に成長することを願っています」との挨拶があった。

◎受賞者及び団体

◆府中第一小学校

☆第43代わかば鼓笛隊

熱心に鼓笛隊の練習に励み、市の行事に参加しその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

☆JRCボランティア

熱心に青少年赤十字活動を行うとともに福祉施設でボランティア活動に参加し人々を力づけた。

◆府中第二小学校

☆平澤 蒼さん

☆柳沢 晃輔さん

久芳美恵子委員長より 「皆さんは、他の人たちのお手本となる活動や成果を収められました。今日はユニホーム姿の人たちもいますが、そのユニホームも皆さんの受賞を誇らしく思っていることと思います。

☆伴 絃希さん

☆川合 佑典さん

☆中村 龍介さん

友だちと力を合わせて目の不自由な方のために点字ブロック設置の要請を行い、誰もが気持ちよく生活できる環境づくりに協力した。

☆和太鼓クラブ

熱心に和太鼓の練習に励み、市の行事でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

☆ブラスバンド

熱心にブラスバンドの練習に励み、地域の行事などでその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆府中第四小学校

☆ハーモニープリーズ

熱心に金管バンドの練習に励み、地域の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆府中第五小学校

☆音楽クラブ

熱心に音楽クラブの練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆府中第七小学校

☆合唱団

熱心に合唱の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

☆府中太鼓クラブ

熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆府中第十小学校

☆和太鼓クラブ

熱心に和太鼓の練習に励み、市の行事でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆武蔵台小学校

☆音楽クラブ

熱心に音楽クラブの練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆新町小学校

☆合唱団

熱心に合唱の練習に励み、市の行事やNHK合唱コンクールでその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆本宿小学校

☆金管バンド

熱心に金管バンドの練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

☆合唱団

熱心に合唱の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

自転車競技の練習に励み、BMX世界選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆白糸台小学校

☆タグラグビークラブ

タグラグビーの練習に励み、全国大会に出場するなど地域に根ざしたスポーツの振興に寄与し、十分にその力を発揮した。

☆和太鼓クラブ

熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、市の行事でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆矢崎小学校

☆石井 卓也さん

☆齊藤 誠司さん

☆塚田 晃大さん

☆中沢 奎登さん

☆木原 愛美さん

☆山本 弘樹さん

☆高野 菜津美さん

☆安藤 彩瑛さん

☆福田 萌さん

地域の方々とともに新田川緑道雑田堀用水路の清掃活動を行い、誰もが安心して緑道や雑田堀用水路に親しめる環境づくりに協力した。

◆若松小学校

☆おこと同好会

熱心に琴の練習に励み、市の行事でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、市の行事でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆小柳小学校

☆ブラスパンド

熱心に金管バンドの練習に励み、地域の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆南白糸台小学校

☆大間 寛斗さん

ピアノの練習に励み、ピティナ・ピアノコンペティションで入選するなどその力を発揮した。☆ウインドアンサンブル

熱心に金管バンドの練習に励み、地域の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露し、多くの人々を力づけ喜ばれた。

◆府中第二中学校

☆菅本 佳奈さん

生徒会副会長としてボランティア活動などに積極的に取り組み誰もが気持ちよく生活できる環境づくりに協力した。

☆原田 真衣さん

水泳の練習に励み、第46回全国中学校水泳競技大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

☆利光 菜美子さん

バドミントンの練習に励み、第6回全日本中学生バドミントン選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆府中第四中学校

☆兜森 真央さん

☆千葉 萌子さん

路上で転倒している高齢者を助け、友人と力を合わせて緊急通報するなど人命救助を行った。☆永沼 弘毅さん

陸上競技の練習に励み、第33回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

☆橋本 良介さん

相撲の稽古に励み第36回全国中学校相撲選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

☆齋藤 美雪さん

水泳の練習に励み、第46回全国中学校水泳競技大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆府中第七中学校

☆高野 有紀さん

水泳の練習に励み、第46回全国中学校水泳競技大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆府中第九中学校

☆新井 祥子さん

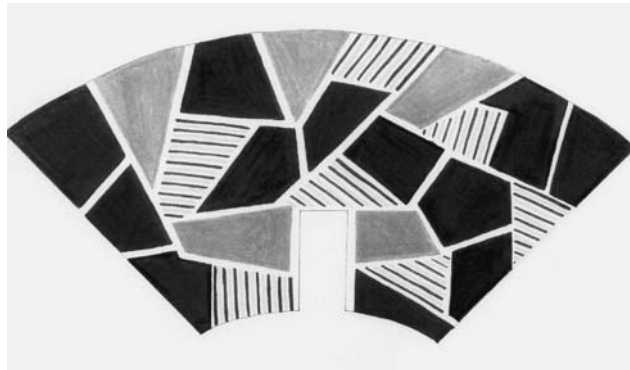
テニスの練習に励み、第33回全国中学校テニス選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

☆加藤 久博さん

野球の練習に励み、世界少年野球大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」の花壇デザイン画に見事選ばれる

小関美咲子さん（府中第六中学校）



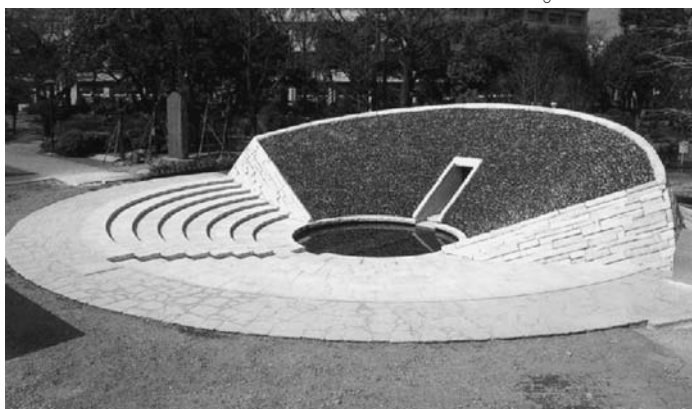
小関美咲子さんのデザイン画

東京都復興記念館での花壇デザイン画採用作品展示会等を開催している。

その中で、東京都復興記念館会場近くの都立横網町公園にある「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」の花壇のデザイン画募集に際し、応募をした府中市立府中第六中学校3年（当時2年）小関美咲子さんの作品が「冬花壇デザイン画」（11月〜3月）に選ばれた。

今回は、東京空襲の史実を風化させることのないようにと都内の小・中・高校生を対象に呼びかけたところ607点の出品があり、その中から秋花壇用、冬花壇用の2点選ばれたが、小関さんが見事その1点に選ばれた。

2月9日、藤森哲校長等立ち会いのもと、東京都生活文化局より賞状と記念品が授与された。



東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑

小関さんの描いたデザイン画による花壇は、今年の11月に植え込みがされ、来年の3月10日の東京空襲犠牲者の追悼法要の時には、遺族の方々等大勢の目に触れるメインのデザインとなる。

小関さんは、デザイン画の作成に当たって、「東京空襲は、やはり悲しい出来事なので少し暗めの色を使いました。そして、どうしても水色は使いたかったので使いました。なぜなら、多くの人が涙したということがあったからです。そして、全体的に青で統一させました」とコメントを書いている。



平成19年度就学相談スタッフ

特別支援相談室 ②

平成18年度の
就学相談を振り返って

就学相談員

大川 辰三

一 はじめに

就学相談担当の業務は、①就学相談・転学相談②就学指導協議会(年5回)・入級検討会(転学)③支援相談・継続相談④研修会等の企画・実施等である。これらの業務を8名の就学相談員(臨床心理士含む)が担当してきた。

二 就学相談・転学相談
について

就学相談では、心身の発達に課題のある子どもの就学について適切な就学先の判断を得るために、保護者との面接相談と観察や検査等の資料を基に就学指導協議会において総合的に検討・協議している。その後保護者の意思を確認して就学先を決定していく。平成18年度の相談件数は、別表の通りである。(就学相談が前年度より27%増、転学相談が前年度より69%増) 年々相談件数は増えてきているが、その理由として①保護者・市民への啓発活動や関係諸機関への積極的な働きかけ等により、保護者同士のつながりが広がり就学相談への信頼が着実に

平成18年度 就学相談結果

1 就学相談受付件数	小学校	中学校	計	
	87	41	128	
措置内訳	小学校	中学校	計	
	通常の学級	21	2	23
	情緒等通級学級	31	4	35
	心身障害学級	6	28	34
	知的障害養護学校	11	5	16
	肢体不自由養護学校	7	0	7
	病弱養護学校	0	0	0
	盲・ろう学校	2	0	2
	取り下げ・転出・その他	8	0	8
	私立学校	1	2	3
	計	87	41	128

2 転学相談受付件数(措置)			
小学校	73	中学校	11
		養護学校	6

三 就学指導協議会
について

35名の委員をA・Bの2部会に分け、個々の事例についてできるだけ時間をかけて検討し、その子どもに最もふさわしい就学先について判断を出してきた。

五 研修等について

教員の指導力の向上や保護者の理解・啓発を推進するために指導室を中心として特別支援教育に関する研修会や講演会を計画・実施してきた。通常の学級の担任・コーディネーターや心身障害学級担任、「あゆの子」や幼稚園、保育園の保護者、私立幼稚園教諭等の参加者が増え、関心の高さを実感している。

六 今後に向けて

平成19年度からの特別支援教育の本格的実施に当たり、学校関係機関との連携を深めて保護者、市民の一層の信頼や協力を得ながら就学相談をはじめ諸事業の充実を図っていく努力を続けていきたい。

高まってきたこと。②相談方法の改善や保護者に対する説明会・講演会を実施したこと。③市内心身障害学級の学級要覧の内容を詳細に分かりやすく工夫し、保護者の理解が得られるようにしてきたこと。④指導室による関係機関とのネットワークづくりの成果が表れ、幼稚園・保育所(園)や医療・福祉機関とのスムーズな連携が図られてきたことがあげられる。さらに特別支援相談室の巡回指導員、巡回相談員との連携により、転学相談へスムーズにつながってきた実績も大きい。

四 支援相談・継続相談
について

入学後もその子の課題に合わせて観察・相談を続けてきている。支援相談・継続相談として学校や関係機関からの要請に応じて就学相談員が学校へ出向き、指導内容・方法・教材づくり等さまざまな形で支援をしてきた。また、臨床心理士が通級指導学級を巡回し、直接、観察や指導・助言、保護者の相談(心理面、発達、子育て)に当たってきたことが、心身障害学級や養

電話教育相談 平成18年度の現状と 今後の展望

電話教育相談員
比留間 洋子

☆ はじめに

今年度は、「いじめ問題」が、大きな社会問題となった。悲しみのどん底の中で、誰に救いの手を求めることもできないまま、自ら命を断っていった子どもは、数はあまりにも多く、社会全体が緊急課題として、解決を模索した。その中であって、改めて見直され、クローズアップされている対応策の一つに、電話相談がある。緊急時、どこからでも、匿名で、安心して心の秘密や困りごとを相談できる電話相談は全国で大きく期待されるものとなり、各機関で新たに設置されるなどの動きも出た。

府中市の電話教育相談においても、3歳〜18歳の子ども・青少年に関する一般電話教育相談に加え、いじめ110番、子どもからのフリーダイヤル相談で子どもの声を聞き取り、適切に対応する役目を担っている。相談者が「かけてみてよかった」「これからの明かりがみえた」と思っていただけのような電話相談でありたいと、誠意ある対応を心がけた。

18年度の相談件数は、397件だった。17年度の511件に比して、相談件数は減少した。その主な理由として、①全小学校において、今年度より特別支援巡回相談が始まり、学校現場において、直接、巡回相談員に相談できるようになったこと
②相談方法の変更に伴い、今年度より、電話相談室での面接相談が中止となったこと
③国・都・府中市を含む他の機関の電話相談・メール相談・手紙相談等の増加、対応時間の増大や設置数の増加、学校での相談体制の工夫、その他様々な相談活動の活性化なども要因の一つとしてあげてよいであろう。

今後さらに、電話相談においても、それら各機関の専門性を生かした連携や、本年度、府中市で始まるメール相談の発展として、電話相談が大いに活用されることを願っている。

以下18年度の電話相談の概況について述べる。

☆ 相談者について

相談者は親が最も多く、全体の82%に当たる。そのうち父親は1割弱、母親が9割以上を占めている。この傾向は昨年度とほぼ変わっていない。

☆ 相談対象者

最も多いのは小学生で、相談件数の51%を占めている。ついで中学生の26%、就学前12%、高校生7%と続く。過去5年間の相談者の変化をみると、昨年に引き続き、就学前の早い段階からの相談が増加の傾向にある。課題解決に向けて早期の取り組みの必要性が広く浸透してきているといえる。

表1 主訴別件数

主訴	対象	就学前	小学生	中学生	高校生	他	合計
性格・行動(不登校・いじめ等)		10	107	54	7	0	178
精神・身体(ことば・身体等)		13	21	3	3	0	40
知能・学業(軽度発達障害・学業不振等)		5	24	11	4	0	44
進路(転校・学校選択等)		3	6	9	4	0	22
その他(学校教師・問い合わせ等)		4	5	5	1	10	25
合計		47	204	103	27	16	397

表1 主訴別件数

の上での単純比較でその全容をとらえる事はできないが、次のような傾向が見られた。

表2 相談件数の多い主訴の内訳

主訴	対象	就学前	小学生	中学生	高校生	他	合計
不登校		3	35	38	3	0	79
いじめ		0	25	6	2	0	33
軽度発達障害		3	17	8	2	0	30
学校・教師との関係		1	17	8	1	2	29
しつけ・育て方		10	9	4	3	0	26

の減少にもかかわらず増加の傾向にある。全相談に占める割合としては8%強ではあるが、2番目に多い相談となった。相談者は、子ども自身が約三分の一、親からの相談が約三分

☆ 主訴別件数について

下の表1、表2は主訴別件数を示している。

18年度は、府中市特別支援教育の取り組みの中で、分類項目の見直しが行われた。集団不応答の一環として分類されていた「いじめ」を「不登校」同様、独立した一つの項目として取り扱うこと。また、以前にはあまり多くなかった「軽度発達障害」に関する相談の増加に伴い、軽度発達障害を一項目として、累計すること、等々相談内容の変化に伴い、傾向を追跡できるように、分類一覧表が現状に合わせて改正された。そのため、今年度は、数字

【不登校】
例年通り、もっとも多いのが、不登校の相談で37%を占めた。相談数は、昨年に比較し、小学校・中学校ともに5割近く減少している。理由として、小学校に関して、巡回相談の中で不登校に関しても相談を受けていること、また、中学校スクールカウンセラーの相談の充実、けやき教室への通級、その他の相談機関の増加、学校内の相談システムの工夫などが予想される。

【いじめ】
次に多いのが、いじめの被害者からの相談である。全相談数の減少にもかかわらず増加の傾向にある。全相談に占める割合としては8%強ではあるが、2番目に多い相談となった。相談者は、子ども自身が約三分の一、親からの相談が約三分

【軽度発達障害の疑い】
同じく8%弱で、3番目に多い相談であった。

【学校・教師との関係】の相談が8%弱で4番目に続いた。

☆ 終わりに
相談者の声だけが頼りの総合的臨床能力の問われる場であることを自覚し、自分を磨き、相談者の心に寄り添う援助を大切にしていきたい。

わが校の特色ある教育 NO.11

『詩ごころ』あふれる
だいく
府中第九小学校

府中市立府中第九小学校

教諭 布川 千佳子
教諭 山田 成子

「今、小学校教育の中で、一番求められるのはなんだろうか」この素朴で大きな疑問から府中第九小学校の特色ある教育活動は始まっている。
いじめ、不登校、虐待、不審者、学力低下・・・さまざまな教育問題が社会では取りざたされている。マスコミでは犯人探しのように、原因は？悪者は？と絶えることなく新しい問題を追い続ける。そして生まれる新しい不信と不安・・・。
本校では、これらに『詩ごころ』で対応してみたいと、教育活動を進めている。
『詩ごころ』あふれる府中第九小学校である。
①これまでの本校の伝統と文化

を活かして
②新しい創造の喜びを味わう
③その喜びを学校から家庭に地域に伝える
その『詩ごころ』活動のいくつかを紹介したい。



『詩ごころ』を町中に

一人一鉢と短歌のプレゼント
一人一鉢の活動は、卒業生を見送る花道を飾るために、全校児童で取り組んできた活動である。

卒業生へのお祝いの気持ちを含めて、一人一鉢ずつ花を育てている。今年度もパンジーやラッパスイセンなど色とりどりの花が咲き、卒業生の花道を美しく飾った。
その一方で、日頃からお世話

になっている近隣の施設や北府中の駅へ、心を込めて育てた花をプレゼントする活動を栽培委員会の子どもたちを中心に取り組んできた。

花の鉢のプレゼントは好評で多くの方たちが喜んでくださった。中には、施設内に飾り、大切に育ててくださっているとの話もあり、子どもたち（学校）と地域をつなげるよい活動となっている。

今年度から、感謝の気持ちを書いたメッセージカードに加えて、短歌をつけて届けることにした。これには、子どもたちが学校生活の中で感じている心を短歌として花に添えて贈ることで、町中を『詩ごころ』でいっぱいにしたいという思いが込められている。

実際の活動の中で、子どもたちは、メッセージカードや短歌を熱心に作り、いくつかのグループに分かれて鉢を届けることができた。また届け先の方々も喜んでくださり、よく見える場所に飾ってくださいました。

今後子どもたちの『詩ごころ』が花とともに多くの人の目に触れ、またそれを見た人の心がぽっと温かくなるようなそんなつながりを大切にした活動にしていきたいと思う。

☆「ありがとう」

気持ちを込めて花贈る

『詩ごころ』届け町中に

第九合唱『喜びの歌』の全員合唱

平成16年度より、原語で『喜びの歌』を全校で歌っている。原語で歌うことにより、本来の音楽のよさを、早い時期から味わってほしいからである。

低学年の鍵盤ハーモニカや、リコーダーの導入期にも、よく取り上げられるこの曲は、シンブルで馴染みやすいうえに、心に残る名曲である。

平易なメロディーラインであるのに、児童にとっては飽きずに演奏することのできる、魅力ある曲のひとつになっている。

多くの音楽愛好家が、毎年合唱団に入って歌っていることからみても、歌詞の内容や音楽が私たちに力を与えてくれているのだと痛感する。ペーターヴェンの平和への願いは、現代に生きる者の願いでもある。

そういう意味でも、本校では卒業式においても、この歌を歌っている。児童のみならず、保護者や職員も『皆さんご一緒に』の心意気で歌うのである。

小学校の時代に覚えた事や経験は、生涯の心の宝物になるに違いない。そしてそれが、次の

時代へと伝わっていくことになるのだろう。

中学校との合唱交流

第九小学校の卒業生の多くが進学する第一中学校は、毎年3月に府中の森芸術劇場ドリームホールで、合唱祭を催している。そこで発表した曲等を、三年生の選択音楽履修者が、第九小学校に来校し披露してくださっている。

真摯に音楽に取り組む中学生の姿と、体育館いっぱい響き渡る清らかな歌声に包まれて、感動を呼ぶ。

義務教育を終えようとする堂々たる中学生と、その姿に憧れる小学生との温かな交流会となっている。



新任の指導室長あいさつ



副参事(兼)指導室長 酒井 泰

〈連携は互恵の気持で〉

今、教育は変革のときにあります。教育基本法が改正され、その他の教育関連の法令も改正が予定されており、我が国の教育の在り方が大きく変わろうとしています。

このような状況の中、府中市には学校教育と生涯教育の連携により新しい教育行政の確立を目指した教育ビジョン「府中市学校教育プラン21」及び「府中市生涯学習推進計画」が示されており、学校・家庭・地域社会が連携して、豊かな人間性と生涯学習社会の実現を目指しています。

特に「府中市学校教育プラン21」は第Ⅱ期の2年目を迎えました。計画の確実な実施とこれまでの取組の成果と課題を明らかにし、取組内容を一層充実させていくことが求められています。さて、この「府中市学校教育プラン21」の実現には、学校・

家庭・地域社会がそれぞれの役割に応じた責任を果たすこととともに十分に連携して取り組むことが重要であります。

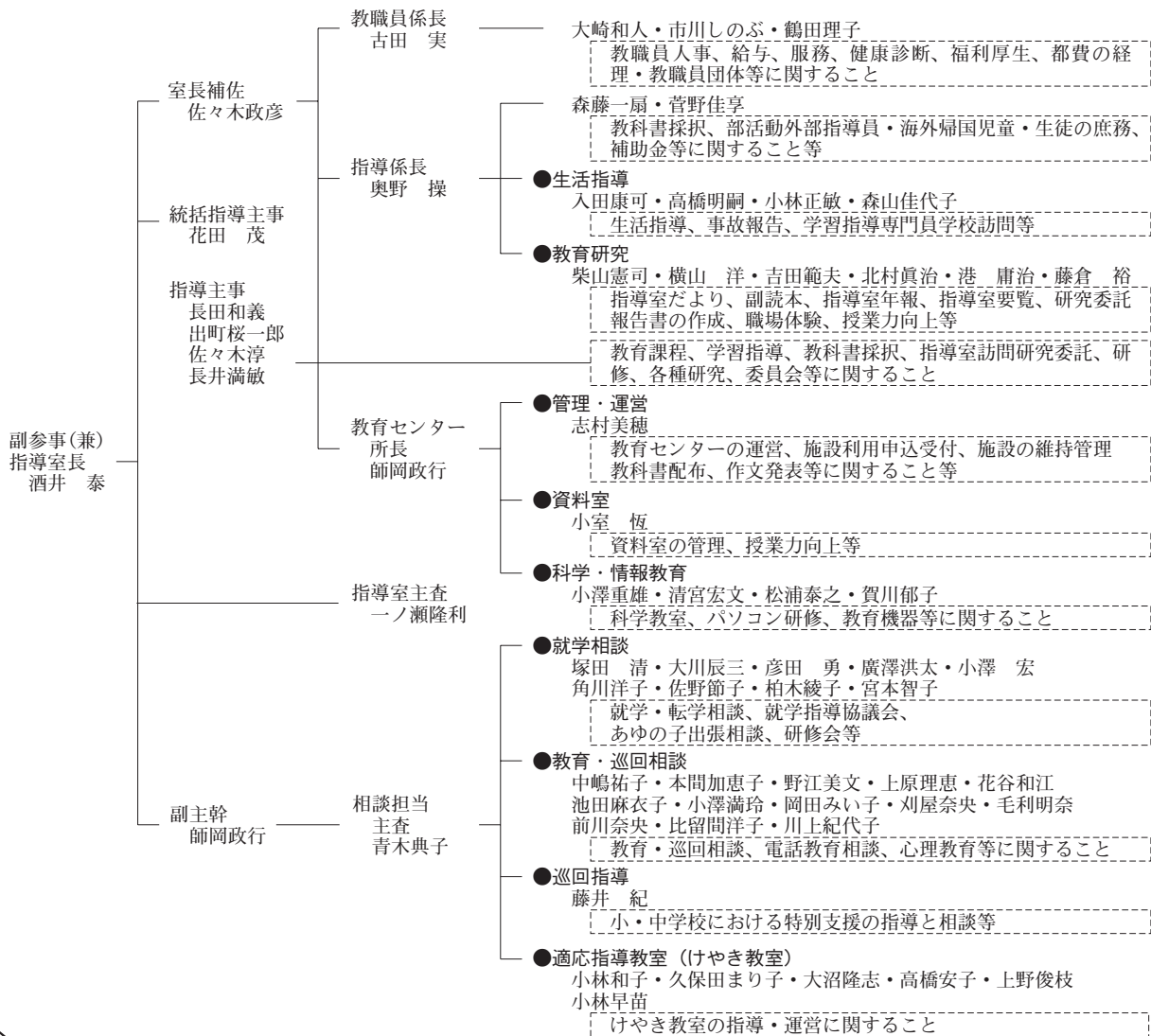
私は、「連携」を考えるとき、常に大切にしているのは「互恵」という視点です。「連携」という名のもとに行われる数々の取組は、互いにとって得るものがある「互恵」でなければ長続きしません。一方通行の「連携」は、「お願い」であり、「依存」につながります。学校が地域社会との連携による取組を推進しようとするとき、学校及び地域社会相互の成果を明らかにした上で、協力を進めていくことが大切であると思います。また、物事が大きく変わるときこそ、「着実な歩み」が飛躍のもとであると考えます。

府中市の教育の充実・発展のために、直ちに取組まなければならないものは何かを正しく見極め、あわてず着実に、そして、誠実に取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、このような大切な時期に着任させていただいたことの責任の重さを十分に認識し、微力ながら誠心誠意努力させていただく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成 19 年度 指導室の組織及び業務

5月1日現在



道徳授業地区公開講座

保護者・市民の参加のもとに 学校・家庭・地域の連携による 道徳教育の充実を図りましょう。 道徳の授業の質を高め、道徳の時間を活性化しましょう。

- ◆5月26日(土) ☆府中第八小学校 8時50分 ☆学校公開日・講演会(予定) ☆住吉小学校 8時35分 ☆学校公開日 ◆6月15日(金) ☆府中第三小学校 8時35分 ☆学校公開日 ☆小柳小学校 8時35分 ☆学校公開日・懇談会 ◆6月16日(土) ☆四谷小学校 8時40分 ☆学校公開日・講演会 ☆府中第八中学校 8時40分 ☆学校公開日・講演会(予定) ◆6月22日(金) ☆府中第三中学校 8時35分 ☆学校公開日・講演会・協議会 ◆6月23日(土) ☆府中第四中学校 8時50分 ☆学校公開日・講演会 ☆府中第十中学校 9時40分 ☆学校公開日・協議会 ◆6月30日(土) ☆本宿小学校 8時50分 ☆学校公開日・講演会 ☆白糸台小学校 8時25分 ☆学校公開日・講演会

Table with 3 columns: 日 (Date), 曜 (Day), 研修会・委員会等 (Workshop/Committee), 会場 (Venue), 研修内容・講師等 (Workshop Content/Instructor). Rows include dates from 5/1 to 5/30 with various events like '初任者研修会', '生活指導主任会', '特別支援学級代表者会', etc.



4月28日(土)から府中市郷土の森博物館において、特別展『宮本常一の足跡』が開催されている。宮本常一生涯百年と、郷土の森博物館開館二十周年を記念した事業として、彼の生涯と業績が展示により紹介されている。また、関連企画として様々なイベントも行われる。宮本常一は、昭和36年から亡くなるまでの20年間、府中に住み、府中から全国を旅した民俗学者である。府中市在任中には、「くらやみ祭」を記録として写真に残している。大國魂神社の例大祭の時期とも重なることもあり、かつての「くらやみ祭」の様子が数多くの写真で見られることは、非常に興味深い。民俗学者として著名な宮本であるが、その研究の出発点には教育者としての経験があった。『家郷の訓(かきょうのおし



え』という著書の中で、宮本は次のように語っている。「二十歳を過ぎて小学校の訓導(注：教員)となり、和泉の農村で十余年を過した。その間たえず教育の効果を十分にあげ得ないことに苦悩した」宮本は、その原因を自分が村の生活習慣や家庭の事情を知らないことにあると考え、「郷党の希求するところや躰(しつけ)の状況が本当に分らないと、学校の教育と家郷の躰の間にもすれば喰違(くわい)を生じ、それが教育効果を著しく削いでいることを知ったのである」という結論に達している。すでに昭和18年に教育の効果を上げるためには、学校と家庭・地域との連携が重要であることを説いていたのである。失われつつあるものを後世に残していくことに心血を注いだ宮本常一の姿勢は、教育に対する情熱によって支えられていたのである。特別展『宮本常一の足跡』では、「教育者宮本常一」の顔も垣間見られるのではないか。(指導主事 長井 満敏)

あとがき

「初心忘るべからず」よく耳にする言葉だが、世阿弥の『花鏡』の中の言葉である◆一般的には「新人の頃の情熱や純粋な気持ちを忘れずにひたむきに取り組み」と解釈されているが、本来の意味はそうではないらしい◆『花鏡』には次のようにある。「しかれば当流に万能一徳の一旬あり。初心忘るべからず。この句、三ヶ条の口伝あり。○是非とも初心忘るべからず(是非によらず、修行を始めた頃の初心の芸を忘るべからず)○時々初心忘るべからず(修行の各段階ごとに、各々の時期の初心の芸を忘るべからず)○老後の初心忘るべからず(老後に及んだ後も、老境に入った時の初心の芸を忘るべからず)この三、よくよく口伝すべし」◆即ち初心とは「段階ごとに経験する芸の未熟さ」のことである。初心を忘れたら初心に戻る。常に自らを戒めれば、上達しようとする姿を保ち続けることができる◆今年度も17名の新規採用教員を迎えた。「初心忘るべからず」常に自らを戒め、向上させるように努力し続けてほしい。世阿弥によれば初任者のみならず各段階ごとの初心を忘れるなとも説いている。(横山 洋)